リリカルなのは？ ～過去と未来の邂逅～

セウル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは？～過去と未来の邂逅～

【Nコード】

N1680Q

【作者名】

セウル

【あらすじ】

管理区域外からの救援信号。

理由もわからず、近くの空間に居たアースラに乗る

高町なのは、フェイト・テストロッサ、八神はやてが現場に向かう。今にも崩れそうな建物の中からその救難信号は来ていた。

フェイトとはやてが建物を支え、なのはが中に進入し救助に向かった……。

プロローグ〈始まりの事件〉（前書き）

作者はあんまり文才がないので、怒らないで下さい。
作者は他所でも小説を書いています。

キャラ崩壊の可能性があります。

主人公は恐らくなのはになります。

文中の【】は思念通信

（ ）の中が会話文

デバイスの声は日本語訳

キャラ崩壊が嫌いな人はお戻り下さい。

プロローグ〈始まりの事件〉

『プロローグ』

【なのは！見つかった?!】

【ううん・・・あとは地下だけ!】

【解った、もうもたへんよ!なるべく急いで!】

【解った!】

.....。

管轄指定外区域からのオール回線の救援要請。

一体誰が・・・?

余計な事考えてる場合じゃないね・・・。

はやてちゃんは今もたないって言った。

急がないと、救助者も私も生き埋め・・・。

学校にも行かなきゃだし、ファイト!なのは!

自分に気合を入れ、速度を上げる。

所々崩れちゃってるね.....

階段までの道が遠い。

アクセルシューター.....

ビー球くらいの魔法弾で瓦礫を壊す。

コレくらいの威力なら支障はないはず。

(マスター)

レイジングハート「以後RH」が呼ぶ。

瓦礫が綺麗に消し飛んでいる。

(うん、急ごうRH)

(この階は部屋はひとつだけ.....)

(マスター、あの部屋から救援要請がきていました。)

・・・よし。

急がないと。

扉に手をかけた瞬間・・・。

(マスター！)

RHが急いでバリアを展開するが、ビルの重さ・・・
耐え切れず、瓦礫に埋もれ、意識が遠のく。

【なのは？！】

【なのはちゃん！】

親友二人の思念通話の声が聞こえたが、
意識は・・・途切れた。

(なのは！)

(なのはちゃん！)

(あつフェイトちゃん)

・・・。

もしかしてわざと？

ねえ・・・。

(な・・・のはちゃん？)

(フェイトちゃん昼食食べに行こうよ)

！？

あれ？私って死んでるんだっけ？

幽霊？

あははは・・・。

はやては体育座りし、地面に指で何かを書き始めた。
残念ながらコンクリートなので、何も残らない。

【なのは！やりすぎだよ】

【にやはは・・・ごめんごめん】

(はやてちゃん。ご飯食べに行こうよ)

……。

返事はない、何かを呟いているみたいだ。

【どうしよう……】

【なんて呟いてるの?】

(うちは要らない子うちは要らない子うちは要らない子うちは要らない子うちは要らない子)

うちは要らない子うちは要らない子うちは要らない子

……。

(なのは……これは……その……)

(壊れちゃったね)

?!

(でも、テレビだって叩けば直るよね?)

?テレビ?

確か、軽く叩いたら平常稼動するね……
フェイトは頷く。

(RH、スターライトブレイカー)

なのはが言う。

ん?

スターライトブレイカー?

(な……なのは!それ叩いてない!粉々になっちゃう!)

(大丈夫、非殺傷だから。)

いやいや……そうゆう問題じゃ……

その時、事件はおきた。

(はやて!なのは!フェイト!任務!)

ヴィータが呼びに来た。

全ての……始まりの任務を。

u
e
d
.

プロローグ〈始まりの事件〉（後書き）

読んでくださりまことにありがとうございます。

コメントを下さると作者の文才向上につながるののでぜひお願いいたします。

『あなたは誰？』（前書き）

それは突然だった、扉に触れて崩れたビル

遠のく意識の行く先は……。

いじけモードのはやてちゃんを引っ叩いて向かつ会議室。

知らされる、任務。

向かう私達。

そこで待つものは……？

『あなたは誰?』

メンコを思いつきり叩き付けた音が響く。

(ちょ・・・・・・・・なのは・・・)

(な・・・何すんねん!痛いやんか!)

あれを痛いで済ますはやってって・・・・・・・・。

かなりいい音、響かせてたのに。

(はやてちゃんがよんでも動かないからだよ!)

(そんなんそつちが無視するからやる!)

(冗談通じないの?)

・・・・・・・・。。。

(いい加減にして下さい!事は一刻を争うんです!)

リインがヴィータが遅いのにしびれを切らし出てきた。

(ごめんなさい)

二人は謝る

【あれ?以外と怖くない?リインちゃん】

【普段優しいやつほど切れるとおっかないんよ】

【二人とも?いい加減にして下さいね?】

・・・・・・・・。。。

リインは笑顔で二人を見つめる。

・・・・・・・・。。。

(ごめん・・・・・・・・)

・・・・・・・・。。。

(それですね。今回、管轄区域外任務なんです)

管轄外区域?

なんで?

(理由は不明ですが、ここから私達管理局信号の救援要請がきてる

んです。）

え？

（行方不明者の人が此処に居るかも知れないとの事で・・・）

（でも待って。管轄区域外なんだよね？）

フェイトが聞く。

・・・。

（そう、それで危険度が不明なんよ。せやからスバル達では駄目らしいんよ。）

それでうちらSオーバ組の出番ちゅう訳や）

なんだか、良いように扱われてる気がするんだけど。

フェイトは少し不満そうな顔をしたが、

なのはが「救助は救助だよ」と言っただけ、参加。

・・・。

（うわぁ・・・まるで東京が壊滅したみたい。）

なのはが現場到着で一言。

確かに見える。

（ねえ、コレだけの文明で人はいないの？）

フェイトが聞く。

確かにいそうだけど・・・

耳を済ませても、ネズミの足音すら聞こえない。

（いない・・・みたいやね。とりあえず、救助信号はこの下からや）

はやては言いながら、倒壊したビルを指差す。

あれ・・・？

これ・・・どこかで・・・？！

（なのは？）

フェイトの心配そうな声に我に返る。

(大丈夫、迅速かつ冷静にやろう。)

【フェイト、今日はミットチルダは吹雪やな】

【うん。傘準備しないと】

なんで二人がこういうのかというと。

なのは「全力全開、NOT冷静。」

(とりあえず、なのは反応は地下だから上を吹き飛ばして)
フェイトの言葉が届いたのか、

RHをシューティングモードで構え、発射。

ピンク色の魔法光線が瓦礫を吹き飛ばす。

(流石・・・?)

なのはは撃ち終わった後、救助信号に近づく

うくん・・・。なんか嫌な風にテンポええな。

(なのはちゃん、下がってええで)

はやてが言う。

・・・。

【はやてどうしたの?】

【明らかに様子がおかしいで?うちが救助する】

【解った。】

はやてが残った瓦礫をかきわけ、見つけた。

(どないなつとんねん・・・。)

はやてが驚いて手を止める

フェイトが近づいてきて、救助しようとする・・・が。

(やっぱり・・・私だね。)

なのはが呟く。

(なんとなく、私っぽい魔力を感じてさ・・・)

なのはは黙る。

それで様子が……。

(と……とりあえず救助しよう)
フェイトが救助し、本部に戻る。

医療班のシャマルも驚いていた。

というのも、魔力、容姿、DNA等……。

(科学的視点で見て100%高町なのは本人よ)
?!

え?え?

(な……なら……あのそばにいるのはは?)
はやての質問にも同じように答える。

という事は……なののが二人?!
……。

あれ……?

私……。

そういえば、瓦礫が崩れて……?
?!

(きゅっ——!?)

飛び起きた瞬間、激痛が全身を這う。

(起きた?)

サイドテールのその女性は優しく声をかける
綺麗な髪……。

(まだ、安静にしてないと駄目)
そっぴい、私に布団をかけ直す。

時間的には夕方、夕日が差し込み、やや眩しい。

(救助者は?)

ベットに横たわる少女は静かに聞く。

(貴女しかいなかったよ)

．．．．．
そっか．．．．あのビルの重さを魔力シールドなしで
いたら．．．．
想像したくない。

(ねえ、貴女の名前聞かせてくれる?)

サイドテールの人は私の手を握って言う。

なんとなく、握られていると安心する．．．．。

(高町．．．．なのは。)

彼女はそう答えた。

．．．．．。

やっぱり．．．．だった。

(お姉さんは?)

少女は知リたそつな目で聞く。

(私もね?高町なのはって．．．．言うんだよ?)

．．．．．。

差し込む夕日は悪戯に隠していたお姉さんの顔を
露にする。

その顔は、大人になった私かと思うほど似ていた。
暫く、その部屋に音が響く事はなかった。

e d -

- T o b e c o n t i n u

『あなたは誰?』(後書き)

ぜひともコメント・感想下さい。

今回も読んでいただき、ありがとうございました。

『二つのレイジングハート』（前書き）

そこで見つけたのは過去の私。

目覚めた私の傍に居るのは未来の私。

意味が解らなくて、怖くて。

でも、貴女は落ち着いていた。

『二つのレイジングハート』

(ここは、貴女視点で未来世界。
……。)

空気は変に重い。

過去と未来の邂逅。

SFなんかでよくあるタイムスリップとか……。

しかし、未来の私が行くならまだ納得はいく。

けれども、来たのは過去の私。

タイムパラドックスを完全に無視している。

なぜなら、私の記憶の中にこんな経験はない。

いや……。

何らかの干渉で世界軸が崩れた……？

(どうしたの？黙り込んで)

やっぱり変な感覚だ……。

自分が目の前に居る。

こんな異質な体験……ううん。

きっとフェイトちゃんもアリシアちゃんに会った時

こんな感じだったのかな……。

(お姉ちゃん？)

?!

(お姉ちゃんって……)

(いいじゃない。年上だし。)

なんと能天気な事が。

いや、多分私の事だから不安にさせまいと

無駄に笑顔になってるんだろう。

(へえ……貴女平気なの?)

意地悪な質問を投げかける。
困った表情。
答えはどうせ、

(全力全開でやれば何とかなる)

(え?)

(貴女は私なのよ?)

不思議そうにする過去の自分に微笑む

.....

(めえさめたんやな?どや、調子は)

入りざまに耳に届く親友の声。

視線を上げて、その人を見る。

解っていたけど.....

(大人はやて.....さん?)

疑問形?!

かわいっ!又フフ.....

(はやて!触れたら怒るからね?)

彼女の後ろから金髪の女性。

綺麗な人.....目を奪われるくらいに。

(いつもの呼び方でいいから。調子はどう?)

.....

周りのみんなが慌ててるのが、わかる.....

けど、視界はぼやけて.....

(ごめんさい、嬉しくて.....知らない世界だったら

どうしようって.....未来の自分だけだと

もしかしたら此処は夢で、死んじゃったのかなって

ううん.....今も.....)

驚く私たちをおいて、彼女は不安を打ち明けた

その時、ずっと沈黙の彼女が喋った。

(過去のマスター、貴女は生きています。過去の私も貴女も今此処に居ます。存在しているのです)

(マスター。安心して下さい。死ぬときは私も一緒です。)

ほお・・・デバイス自ら、生きていますなんて・・・
珍しい事もあるんやね。

でも、私達のデバイスは物やない、相棒やから・・・
ありえへん訳やない・・・。

落ち着いた彼女をなのはとフェイトに託し部屋を出る。

・・・。

【何故来たのか・・・調べるのはうちの仕事やでリン！】

【はいです！】

なのはたちは自室に戻り、はやてはリンらと共に理由を探し始めた。

一体・・・何が絡んでいるのか・・・な。

- T o b e c o n t i

n u e d -

『二つのレイジングハート』（後書き）

私自身これ以外にも色々他のサイトで公開してますが……。とりあえず、これを投稿してみようかとおもってこの過去と未来の邂逅を書いています。

関係ないですが、

私的に、八神はやてが一番好き。

それでは読んでくださり、ありがとうございました。

『私は高町……』(前書き)

相棒（RH）が言ってくれた……。

貴女はいい人だね……。

私、貴女が好きだよ。レイジングハート。

なのはママとフェイトママご帰還。

だ……だけど、知らない子を連れてきた……。

ど……どことなくなのはママに似てる……。

似てる……え？まさか……。

ち……違うよね?!なのはママ!

『私は高町……』

(私、嬉しいです。)

唐突に、RHを掲げて、チビなのが言う。

こう見ると、なんか自分のこと……あっ……。

(ヴィヴィオにどう説明しよう……)

なのはが呟く

?!

そういえば……

驚いていたとはいえ、ヴィヴィオを忘れていた。

ああ……ヴィヴィオ……。

(どうする?)

疑問を浮かべるフェイトにチビなのはが胸を張って言う。

(任せて!)

ん?

何をやる気が、笑顔でそう言った。

(どうする?フェイトちゃん……)

意気消沈のなのが聞く。

うん……

(解った。お願いね。)

フェイトが言うと、任せなさい!的なポーズを取る。

今のなのは……顔が赤い。

昔の自分の行動が恥ずかしいんだね……。

そして……運命の時は訪れた。

(お帰りなのはマ……マ……マ?)

沈黙。

嫌な感じに止まったけど、コレはまだ予測通り。

……。

(なのはママ……私じゃ嫌なの?)

何が?!

(私以外の……それもなのはママ似……
それってつまり本当の子供だよね?)

?!

何を言うかと思えば……。

(違うよ? ヴィヴィオちゃん。私は妹だよ)

え?

そういうこと……。

ああ……。

(私、高町かえで。よろしくね。)

何平然と言ってるのかなこの子は……

けれど……まあ得策かな。

【今度からこう呼んで下さい、一緒だと色々ややこしいですから】

【解ったよ。かえで】

【ごめんね?】

【にはは……気にしない気にしない。訪問者は私だもん】

こうして、高町かえでという架空の人物が出来上がった。

e d .

- T o b e c o n t i n u

『私は高町……』 (後書き)

今回は短いかな……？
ごめんなさい。

ヴィヴィオ登場。

しかしこのヴィヴィオ……。
いえ、まあ。

架空人物

高町かえで。過去のなのはが未来世界で使った名前。

それでは今回も朗読ありがとうございました。

感想をいただけると、作者の文章力経験値が溜まります。

『進み始めた時計』（前書き）

注意。

少しグロイ描写があるかもしれませんが。

なので苦手な方はお引取りを。

理由も解らないまま、数日が過ぎていく。

帰る方法もわからず……

しかし、事件はおきた。

止まった時計の針を動かすために。

過去のなのはかえでと表示します。

『進み始めた時計』

(ヴィヴィオも魔法使えるの?)
かえでが聞く。

ヴィヴィオは自慢げにピンク色の球体を出す。
残念ながら、かえでは正体がばれる可能性も含め、
魔法の使用を禁じられている。

(いいなあ・・・私も使えたらいいのに)
実は使えるんだけどね・・・。
それにしても・・・。

?

(どうしたの?かえで。なんか悩み事?
言うておくけどなのはママを渡すつもりはないから!)
・・・。
私って・・・こんなに好かれる人なんだ。
ちょっと嬉しい。

(ううん・・・なんでもないの。)
私の正体とか教えてないし・・・。
相談なんて出来ない。
大人はやてさんが頑張って調べてくれるけど・・・。
どうしよう・・・。
・・・。

その時まさに、その事件はおきた。

(なのは!)
え?

ヴィータが名前を呼ぶ。

理由は・・・。

下腹部を何かが貫き、へその辺りから透明の爪らしきものが飛び出していた。

(アクセル・・・シューター・・・)

途切れそうな意識下で球体を操り、謎の敵を吹っ飛ばす・・・が。それでは終わらない。

(ヴィータちゃん！)

今度は、ヴィータが・・・貫かれ、ヴィータとなのはの血が地面に流れ赤く染めていく。

(ち・・・くしょう！)

ヴィータが敵を倒し、今にも倒れそうな歩き方で私に近づく。

(ヴィータちゃ・・・)

なのはの前に足跡が出来る。

?!

透明の敵、三匹目・・・

(ヴィー t _____)

私が言うより先に、それは行動を起こした。

ヴィータの腕が足が・・・私の前に落ちる・・・

ヴィータの大切な帽子が私の視界を閉じると共に意識は闇に葬られた。

(なんやて?!)

はやての元に一本の連絡。

フェイトとティアナ、はやてとリンとシグナムこの5人でそこに向かう。

それは・・・なのはとヴィータの任務先だった。

止まっていた時計の針は動き出したのだ。

n u e e
- d a

- T o
b e
c o n t i

『進み始めた時計』（後書き）

じつはこれ

短編予定だったけど、何故か長くなって長編に。

最後まで読んでいただけると嬉しいです。

此処までありがとうございました。

次回はそのうち。

『機動六課再動』（前書き）

はい。

ヴィータが好きな人。

本当にごめんなさい。

因みにRHはレイジングハートの略です。

それでは……どうぞ。

『機動六課再動』

(私は・・・くっ・・・)

(あんまり動くな、生きているだけで奇跡
それなのに四肢はくっついたんだ)

シグナムが壁に寄りかかっていた。

.....。

(なのはは?)

ヴィータが聞く。

.....。

(落ち着け、ヴィータ)

(落ち着けるもんか！また・・・私はっ！)

(落ち着いてくださいヴィータ。)

え？

ここに居るべきではないものの声。

なんで？

(何でここに居るんだ？お前。)

ヴィータが聞く。

(伝言役です、私はみんなに伝えるべき事がある。
その為に私達は生かされた。)

?!

衝撃が、体を走る。

生かされた？

伝言役？

待て？

なんて？え？

(ヴィータ・・・)

はやてが入って来た。

辛くて、悲しくて……

嬉しくて……喜怒哀楽全てが詰まった表情で名前を呼ぶ。

その後ろにはもつとも顔向けできない人が。

(ごめん……フェイト……)

(謝らないでヴィータ。貴女の怪我を見れば何があったか少しは解るから。)

……

なのは……

ヴィータの頬を涙が伝う。

くそ……くそお!……

(暇だね)

ヴィヴィオが言う

うーん……

そうだ

(探検行こうよ)

(いいね。いこっか)

なのはが答える。

特に外出禁止とは言われてない。

なら、出ても大丈夫。

(どこ行こうかな)

(とりあえず、誰かに聞いてはやてお姉ちゃんさがそ)

二人は色んな人に聞きまわり、治療室に居る事を掴んだ。

そして……

(なのははまだ死んでない!)

(可能性を述べただけだ！)

(可能性？それでも言っちゃいけない事があるよ！)

(おちつくんや！シグナム！フェイトちゃん！)

(なのはが死んだって言うのを納得するの?!はやて!)

え………?

(せやか………?!)

扉が……勢いよく開く。

知られてはいけない。

聞かせてはいけない事件。

二人は聞いた。

(ヴィ……ヴィオ?か……えで?)

フェイトの白い肌が真っ青になる。

しもうた………

まさか………

(ねえ……どういうこと?)

ヴィヴィオが聞く。

………。

どうす

(黙ってないで答えて!)

未来の出来事。

未来の自分の出来事を知ってしまった。

(なのはが行方不明なんだ。)

赤い騎士………。

(シグナム。事実?)

彼女は嘘は言わないだろうと、ヴィヴィオは聞く

………。

(ああ、事実だ。)

．．．．．。嘘。

【かえで．．．シヨックだろうけど此処は抑えて？】

【うん．．．．．】

消え入りそうな思念通話の返答．．．。

（そっか．．．でも生きてるんだよね？）

ために切り出す。

．．．．．。

（ああ、生きている。私達はこれから救援に向かう予定だ）
シグナムが答える。

．．．．．。

そう．．．．．。

あくまで騙し続けるのね．．．．。

（絶対．．．絶対見つけてね？フェイトママ．．．
行こう．．．かえでちゃん）

（ちょっと待って。）

RHがヴィヴィオの手の中に落ちる。

（私は傍に居ます。）

．．．．．。

全員気づいていた。

ヴィヴィオがどこから聞いていたのかを．．．。
だからこそ、RHを止めずに行かせた。

（RH．．．マスターはみんなが見つけてくれる
だから．．．一緒に行こう。）

ヴィヴィオはそう言つと、かえでの手を引き、部屋を出て行った。
．．．．．。

（今回．．．もう一度起動させた方が良いのでは？）

シグナムがはやてを見る

・ ・ ・ ・ ・

(はやて・ ・ ・ ・ ・)

(頼む・ ・ ・ はやて・ ・ ・ ・ ・)

最強の部隊・ ・ ・ ・

JS事件を解決後解散した・ ・ ・ ・ ・

そうやな・ ・ ・ ・ ・

時は一刻を争うんや。

(機動六課・ ・ ・ 再起動の準備や!)

半日で最強の部隊、機動六課は再起動した。

メンバーは飛んで戻り、上層部はクロノ・カリム・リンディ・ ・ ・ ・

・ ・

何人もの人の緊急事態宣言により、

一時的な設立で通る事となった。

e d -

- T o b e c o n t i n u

『機動六課再動』（後書き）

六課再動

わあい。……。

さてと、ヴィヴィオは策士のようです。

これからどうなるか（最小で）楽しみにして下さい。

読んでくださり、ありがとうございました。

『機動六課 vs。』（前書き）

タイトルとの違いは無視の方向性で。
キャラ的崩壊の予感。

そして、短いかも……。
それは勘弁して下さいね。

『機動六課 V S。』

(それじゃ・・・行くね?)

フェイトはそう言い、二人から離れ、転送ポートへと消える。

再起動した六課。早速、現場に飛ぶ。何故?

答えは簡単・・・

今朝、敵側から連絡が来たのだ。

内容は簡単。

高町なのはを公開処刑する。

映像は、本局全体配信されている。

機動六課のみ私の元に来い。

猶予は一日。と。

それはもちろんヴィヴィオ達の耳にも届いていた。

しかし、彼女達のような小さい子を連れて行くわけにはいかない。

エリオ、キャロも同様に・・・

四人は残った。

向かったのはスターズと隊長達。

シグナム、はやて、フェイト、ヴィータ、ティアナ、スバル、リン、アギトの8人。

・・・

(フェイトさんたちなら大丈夫。)

エリオは言うが、かなり不安そうだ。

・・・

(大丈夫・・・だといけど。)

かえでが小さく呟いた。

(さて……分隊で行こう)

(その必要は無い)

どこからとも無く声が響くと地面が裂け、全員落ちる。
……。

？

真っ暗……。

(やあ、久しぶり)

フェイトとシグナムとアギトの前に二人の人影

ひとつは……ジェイルスカリエッティ

そして……

(また……生きてしまった。)

?!

(旦那?!)

アギトが驚く。

(ここはどこやねん……)

(さあ、わかんない)

(気をつけてください……だれか……え?)

三人の前に居たのは……

(主はやて……)

消滅したはずの……初代リインフォースだった。

(ティアナ……)

(大丈夫よ別に！しっかりして！)

……。

足音が二人に近づく。

……。

(また……歯向かうのね?)

え？

驚きの人物が立ちふさがった。

各々の前に現れたのは……敵？それとも……。

- T o b e c o n t i n

u e d -

『機動六課 V S。』 (後書き)

文才が欲しい……………。

発想あれど、文章に出来ない。

それでは

読んでくれて有難う御座いました。

『壊滅の機動六課』（前書き）

フルボツコタ〜イム。

ごめんなさい、まじで。

そんなよわくねえよ！とか思うかもしれないけど、勘弁して下さい。

戦闘の描写苦手な作者に祝福を。

『壊滅の機動六課』

(うわああああ)

轟音と共に、シグナムが壁に激突する
っ……。

【おいシグナム！平気か?!】

【問題ない……しかし……】

【ああ、アタシたちの知る旦那の強さじゃない】

【ここに居る理由も不明だ……】

一人の男が、シグナムに近づく。
来るか?!

(何故だぜスト！ここに居るのは何故だ！)

……。

だんまりか……。

(残念だよ、フェイトテストロッサ。)

スカリエツティが苦笑しながら言う。

くっ……。

留置所に居るはずじゃ……。

それに、上と連絡がつかない……。まずい状態だね。

シグナムも……。

(よそ見してていいのかな?)

目の前に居たはずの彼の声が後ろから聞こえた瞬間

魔力の鎖がフェイトを縛る。

バインド?!くっ……。硬い。

(さてと、まずはバルディッシュで殴ってくれた仕返しだね。うん……ちよつと力入れれば折れそうな腕だね)

?!

彼の言葉に、背筋が凍る……。

此処は仕方ない……バリアジャケットをパージすれば……。

(無駄だよ。パージしても抜け出せないよ。)

スカリエツティが微笑む。

(そんな、嘘は通用しない!)

(やってみれば良い、どうぞ?)

くっ……。

調子に乗るな!

(バリアジャケットパージ)

バルディッシュユが言うと、バリアジャケットが弾ける……が。

?!

(な……砕けない……?)

(いったらどう?無駄と。)

くっ……。

バリアジャケットが再構成されたが、魔力の鎖には

ひび一つ入っていない……。

(さてと……それじゃ……私の番だフェイトテストロッサ。こ

こを逆に曲げてみよう。)

スカリエツティが笑顔でフェイトの右手を指す。

そして、何かが碎けるように折れる音が、暗闇に響き渡り、

続くように、フェイトの悲鳴が響いた。

フェイトちゃんの悲鳴?!

悲鳴ははやてたちに届いていた。

(リインフォース!止めてくれへんか?!)

(それは出来ません。今の私は純粹に敵。

ただそれだけです。)

くそっ……初代が何で此処に……。

(なのは助けないといけないんだ!どけえええええええ!)

?!

【あかん！ヴィータ！】

(え?)

(単純な軌道、力任せの攻撃、私には通用しません。)
まっ………

初代リインフォースの前にピンク色の魔力が集中する

(はやてちゃん！シールドフルパワーで！コレは避け切れないうす
！)

(うああああああ！邪魔するなあああ)

ヴィータの特攻………

それと同時に放たれる、なのはの最強技のコピー。

スターライトブレイカー。

(ヴィータア！)

はやての声はS Bの爆発でかき消されるそして、爆発が、はやてと
リインを襲う。

(あかん……シールドが……やぶっ……)

ガラスの割れる音が響き、二人は爆発に飲み込まれた。

(な……んで？なのはさん……)

スバルがボロボロになりながら聞く。

(流石、戦闘機人耐えるわね、でもコレでおしまい。

R H、アクセルシューター)

?!

何か変………。

そつえば、最初から何かが………

R H………?

まさかつ！

(気づいたの？でも、何の意味も成さないけどね)
うっ………どうし………

ピンク色の魔力弾がスバルを襲い、爆発する。

(あつけないあい・・・つまらない子。)
.....

(RHどういうこと?!)
かえでが聞く。

.....

(過去のマスター。私はこうなる事を知っていました。
そしてコレからすべき事も。)

?

ヴィヴィオのもつRHが言う

(時間がありません、私達は行かなければなりません。あそこへ。)
(どういう意味?)

ヴィヴィオは困惑した表情で、RHを見つめる。

(全ての元凶は、私を作り出したドクターなのです。)
?!
RHを作り出した・・・?

(彼は、私を作り、戦闘プログラム保存機能をつけた。
そして、彼はこの時代に時空転移した。)

(え?それじゃ・・・)

(いいえ、貴女を呼んだのは私です。

未来の貴女を救うには私達の力を要します。)

??

ますます意味が解らない・・・。
なんで?

同じRHが二つでも・・・

(恐らく、機動六課は壊滅します。

ですから、大元を叩くには私たちしか居ません。)

(エリオくんたちは?)

(いえ、彼らが行けば戦火は広がるだけです。
急ぎましよう時間が・・・)

(何故?未来の私が?)
.....

最後の疑問。

なのはが聞き、ヴィヴィオも静かに答えを待つ。

(私の.....)

RHが黙る.....

(私のマスターだからです。そして、彼は
自分をマスターに移植しようとしています。
されてしまえば、取り戻す事は不可能です。)

.....

RHのマスターだから.....

でも、私達は二人で一人.....

(私と逆だね・・・行こう、かえで・・・ううん。

なのは!)

ヴィヴィオが言う

え?

あれ?

(だって、なのはママのことを未来の私っていったよ)

あっ.....

まあ.....

(今更隠してもしょうがないよね。)

二人が頷く。

(ヴィヴィオ。今、私のマスターは貴女です。)

大人なのはRHが言っていると、ヴィヴィオが頷く。

そして、二人は光に包まれ、なのは救出に向かう。

ふたつのRHYTHM。

e . d .

- T o b e c o n t i n u

『壊滅の機動六課』（後書き）

さてと、ようやく主人公たちの出番デスネ。

ヴィヴィオとかえで。さて・・・どうなんのかな。

ここまで読んでくれて有難うございました。

『かえでVSリイン』（前書き）

今回も過去なのは「かえで」です。

戦闘の描写が苦手な作者は戦闘終了が早いようです。

『かえでvsリイン』

正直、レイジングハートの説明は良く解らなかつたけど、とりあえず、なのはママを助けなさいといけない。

それは絶対。

未来の私。

何をどうすればいいのか、良く解らないけど。

二人のRHそしてヴィヴィオちゃんがいれば

何とかできる。

そんな気がする……。

でも……。

大広間に転送された私達、そこに居たのはボロボロになって倒れた機動六課の面々……。

(みんな！しつかりして！)

かえでが呼ぶ……が。

生きているか死んでいるかすら判らない。

……。

(これはこれは、RHくん久しぶりだね。)

?!

スピーカーから声が響く。

(ドクター。私は貴方の間違いを正しに来た。)

(イレギュラー要素の高町なのはが居るといふ事で判るかな。)

……。

どこかで見られてる？

(聖王ヴィヴィオと後の管理局の白い悪魔。)

確かに、素晴らしい布陣だ。だが・・・
周りが急に暗くなる。

?!な・・・なに?

(閉鎖空間です、私たちの最も恐れたり、敬った人が
敵として現れる・・・。)

(ほう・・・流石だな。まあガンバリたまえ)
そう言うことでスピーカーの音が消えた
・・・。

(抜け出すには、負けるか、勝つかです。)

(答えは1つ、行くよ、かえで。)

(あれ?なのはでいいのに)

(ううん、やっぱりママを呼び捨ては、やだから)

(ふうん、じゃあ、やりましょうか。)

(高町なのは、久しいな)

つ・・・。

最悪だね・・・これ・・・。

初代リインフォースに、大人版の私・・・。

リインは私で、大人版はヴィヴィオちゃんかな・・・。

(マスター!きます)

RHが呼ぶと、ヴィヴィオたちの空間から切り離され、
初代リインフォースと高町かえで(過去なのは)
の二人きりになった。

(勝てるかな・・・)

(やれます、マスターなら。)

(うん!)

(あれからの成長、見せてもらいます。)

これは暴走状態じゃない、通常のリインフォースさん

だとしたら、生半可な作戦とか攻撃は通じない。

（いつまで、そうしているのですか？

私からいかせて貰います。ブラッティダガー）

赤い短刀がかえでに襲い掛かる。

（RH、アクセルシューター！）

ピンクの魔法弾が、短刀を打ち砕き、リインを狙う。

（甘い。）

（どうかな？デイベイーンバスターアア！）

?!

チャージ無しのデイベインバスター?!

リインにぶつかり、爆発が起きる。

直撃？でも、きつとまだ。

（デアボリック・エミッション）

?!

空間魔法？

（プロテクションパワー）

RHがシールドを張る……。

……。

ガラスにひびが入るような音が響いたが、シールドは持ち堪えた。

（アクセルシューター！シュート！）

8つのピンクの玉が宙を舞うように飛ぶ。

……。

（アクセル！）

8方向からの一斉射撃。

これはどう？

4発ふせがれたが、4発直撃……。

だが。

(無駄・・・。この程度じゃ・・・。)
でも・・・無傷ってわけじゃない・・・。
ただ、このままでは・・・。
だから。

(ACSドライブ・・・。)
これで・・・決める。

- T o b e c o n t i n u

e d -

『かえでVSリイン』（後書き）

元々短編予定だったから、短いね。

戦闘の描写・・・うまくなりたいなあ・・・。

ここまで読んでくれて有難う御座いました。

『ヴィヴィオvsなのはママ』（前書き）

今回は

ヴィヴィオとなのは（大人）の戦いです。

あと、設定とか変かもしれませんが見逃してください。

『ヴィヴィオvsなのはママ』

かえでとリインの戦闘と同時間軸の話。
私となのはママ……。

あの時はただ暴走してただけ。
でも今は違う。

意味ある力は破壊じゃない。救いの力。
そうでしょ？なのはママ。

(なのはママ……)。
ヴィヴィオが小さくつぶやく。

(悪い子はお仕置き。RH)
黒い服に身を包んだなのは……。
やっぱり……。

(マスター)。
うん、判ってる。

逃げない。

あのママはあの時の私と同じ。
だから……

(セットアップ、スタンバイレディ)
(意味ある力で貴女を救います！)

聖王モードになったヴィヴィオがRHを装備した。
……。

(悪い子……ママの真似?)
ヴィヴィオは首を振る。

違う。真似をしているのは貴女だよ。
なのはママの偽者！

(偽者は！貴女だ！)

(アクセセルシューター！)

同時に言い、

ヴィヴィオの周りに虹色の魔法弾が。
なのはの周りにピンク色の魔法弾が。

.....。

そして、また同時に

(シュート！)

互いの魔法弾が相殺される。

そして、両者の最後の魔法弾が相殺された時、
二人は共に踏み出した。

(いつけええええ！)

互いのRHが衝突する。

そのたびに魔力拡散小爆発が起こる。

(ショートバスター！)

ヴィヴィオが放つ。

?!

(ワイドエリアプロテクション)

なのはの前にシールドが現れる。

.....。

(マスター、このままでは消耗戦です。)

RHが言う。

.....。

(どうすればいい?)

(ブラスター3.....。ビット展開.....)

?!

あれは……。

(RH……私も出来る?)

(ええ。マスターなら。)

(ブラスター3、ブラスタービット展開。RH行くわよ!)

二人の間に巨大な魔力の塊が出来上がる。

……。

(スターライトブレイカアアア!)

二つの膨大な魔力が衝突し、均衡するそれは弾けた。
そして……。

ued

- T o b e c o n t i n

『ヴィヴィオvsなのはママ』（後書き）

短かったかも……。

二重投稿なのでコピペなんで……。

向こうは3000字までしか打てないし……。

すみません……言い訳です。

ここまで読んでくれて有難うございました。

感想等いただけるとありがたいです。

『私達に出来る事。』 (前書き)

かえで「過去のなのはです。

ティアナ達を忘れていたわけではない・・・はず。

ヴィータが何故居るかは、超回復したからって事で。

『私達に出来る事。』

(マスター……。)

RHが心なしか心配そうな呼び方をしてきた。

かえでは、大丈夫と言うように立ち上がる。

まわりをみれば、元の空間に居るらしく、

だけど……。

(ヴィヴィオちゃんが……。)

(大丈夫です。マスター。)

RHが断言する。

うん。そうだね……。

そして、近くの空間が歪み、ヴィヴィオが出てきた。

(かえでちゃん……。)

意識があるから勝ったんだろうけど……。

そんなボロボロに……。

(行って。私達は平気だから。)

?!

フェイトたちが近づいてきた。

(みつともないとところ見せてもうたね……)

うちらは動けへん……せやから……リインと

デバイスを……。)

(はやてちゃん……。)

(大丈夫やリイン。行ってきてええで。それでつれかえってきいや。

)

……。

大人はやてさん……フェイトさん……

ヴィータちゃんにティアナさんにスバルさん。

(ティアナとスバルは大丈夫だ。あと。)

(ん？アタシもか。)

シグナムはアギトをリインの隣に行かせる。

(みなさん……。)

(早くしないとまにあわねえぞ！速く行って来い)
……。

(みんなのデバイス。壊さないようにね)

(ヴィヴィオちゃん……それは自信ないかも)
……。

ヴィヴィオとかえではくすつと笑う。

(いくんでしょ？マスターのところに。)

大人なのはRHをかえでに渡す。

そして、

二人は暫く、見合つと笑顔で言った。

(全力全開で、未来の私を連れ帰る！)

……。

(うん。お願い。)

ヴィヴィオはそう言つと、手を振つた。

皆のデバイス……。

レイジングハート、バルディッシュ、グラーフアイゼン、

レヴァンティン、夜天の書、マツハキャリバー、クロスミラージュ
そして……。

(シグナムのお願いだからだからなっ)

(お願いしますね。)

二人のユニゾンデバイス……。

(絶対助けよう、みんな。)
デバイスに向かって言うと、最後の敵の待つ扉へ向かって走って行った。

(待ってたよ?)

扉を開け、中に入る……。

宮殿の玉座の間かと思える広さと装飾。

その奥の玉座に座る一人の女性……。

彼女は言った。

(待っていたよ。)
と。

(そんなん……)

ラインが驚きの声を上げる。

(マスター)

RHが言う……が。

(私にはそんな道具は要らない。邪魔なだけだ。)

彼女は笑顔で言った。

……。

(ごめんね?レイジングハート……)

かえでは俯いて言う。

その目には涙が溜まる。

……。

(いいえ、謝らないで下さい。今はマスターを此処で倒す事が私達が今、すべきことです。)

RHはそう言うと、エクシードモードになる

(私がユニゾンします。)

ラインが言う。

かえでの髪の色が水色に変わる。

服の色は何故かそのまま。

.....。

（全力全開！）

（来なよ・・・お嬢ちゃん）

大人なのはと過去のなのが対峙した。

『私達に出来る事。』 (後書き)

色々設定に不備が・・・・・・・・。
勘弁して下さい。

読んでくれて有難うございました。

感想等お待ちしてます。

『なのはvsドクター』（前書き）

なのは「過去のなのは。ドクター」大人なのは
これでお送りいたします。

右が左の呼び方で登場です。

ドクターはチート補正がかかっています。

『なのはvsドクター』

待っていたのは、未来の私。

でも、彼女はすでに、彼女ではなく……。

そして、彼女の相棒は言った。

（今はマスターを此処で倒す事が私達が今、するべきことです。）
と。

だから、私は貴女を倒します。それが私の未来を潰す事になったとしても。

（あはははっ、私を倒せると思っているの?!）

大人なのはの姿をしたドクターが言う。

声も、見た目も……。

（返して下さいっ!）

なのはが叫ぶ……が。

ドクターの前にエネルギーが集束する。

あれはっ……。

（ディバイン……バスター）

ニヤツと笑うと、ドクターが放つ。

RH無しで?!

驚きながらも、ぎりぎりでかわす。

（ふ〜ん。よけられちゃったかあ……ざあんねん
でも次は殺してあげる）

楽しそうに、ドクターが言う。

（わ……私そんな事言わない!）
……。

(あれ？RHなんで否定しないの？)

え？まさか……。

(いいんじゃないでしょうか。)

(何が?!)

(遊んでないで、来ますよ!)

ラインが怒鳴る。

(アクセルシューター!)

二人同時に放ち、相殺する。

くっ……。

(プラズマランサー)

?!

それは……

(フェイトちゃんのこと?!)

(にははっ……ばいばい)

ドクターが笑顔で手を振る……が。

(ぼつとすんな!馬鹿!)

アギトが炎の魔法で助け出す。

ちっ……。

ユニゾン機がもう一人居たか……。

なら……。

(トライデントスマッシャー)

?!

また?!

(デイバインバスター!)

なのはがデイバインバスターを撃ち、相殺する。

なんで?

なんでフェイトちゃんの魔法を……。

(不思議そうだな。聞いてないのか？RHには戦闘保存機能を埋め込んである。)

RHが戦闘した相手の魔法情報は全て私に送られるようになる。
.....)

なのは達を絶望が襲う.....。

倒せるの.....？全ての魔法を使えるといっても良いのに.....。

(大丈夫、マスターには皆のデバイスがあります)

？

(でも.....)

(全部のデバイスを展開して下さい。)

そんなこと出来るわけ.....。

(大丈夫だ。アタシとリインも負担を負う。)

そうすれば、3分の1になる。)

(けど.....ツインユニゾンなんて.....)

(出来ませ、アギトが私とユニゾンすれば。)

大人なのはRHが言う。

(そんなことしたら.....)

(心配する必要はありません。それに、後悔はしたくありません。)

レイジングハート.....。

(いつまで喋ってやがる！消え去りなさい。
スターライト.....)

ドクターがなのは目掛けて放つ準備をする。

.....。

(ツインユニゾン！デバイス全開放！あうっ……)

重い……。
負担がやっぱり……。

(マスター私も負担を負います)
なのはRHが言う。

……。

駄目って通じないだろうなあ

(お願い！レイジングハート！)

(消え去りなさい！スターライトブレイカー！)

なのはが言ったのと同時に、ドクターのチャージが終わり、スター
ライトブレイカーが放たれた。

そして爆発がおき、煙が充満する。

(直撃だね。)

そして、

ドクターが微笑し、そう言った。

『なのはvsドクター』（後書き）

大人なのはのイメージ壊れてませんよね？

アレ人が乗り移ってるだけだから嫌いにならないで下さい

もうすぐ、最終回です。

ここまで朗読の感謝感激です。

感想等、お待ちしています。

『絶対禁忌秘術トルプルユニゾン』（前書き）

すいません。

作者は頭がアボ〜ンしています。

前回でリインとなのはのユニゾン自体アウト……。
キャラ崩壊が嫌な人はお引き取りください

なのは「過去のなのは。ドクター」大人なのは
コレでお送りいたします。

右の見た目が左の呼び方で登場です。

『絶対禁忌秘術トルブルユニゾン』

私の長年の夢……………。

こんな形で終わらせない。

頭の硬いミットの本局を潰すまでは！

高町なのは……………こいつはツインユニゾンを成功した。
ならば……………私の夢を試すときだ。

……………。

ドクターは黙って、煙が晴れない……………
なのはの居た場所を見つめる。

もし、あれをやっていたらあの程度では……………。

だが、彼女に私を殺す事は出来ないだろうな。

今の私は、彼女の未来……………。

自分で自分を殺す事になるのだから。

(……………。終わったのか？)

ドクターが呟いた瞬間……………。

隙間風とも思える風が、横を通る……………。

?!

あわせて 後ろを振り向く……………が。

(なんだ……………生きてるじゃん。)

思わず口に出す。

(当たり前です。バルディッシュ。真・ソニックフォーム)

なのはが持っているデバイスがバルディッシュに変わっていた。

?!

(イエス・サー。ソニックフォーム
まずい……この女あ！)

(アクセルシユール……ぐあっ！)

上に跳んで逃げようとした瞬間、

先回りしたなのはに打ち落とされ、地面に激突する。

(逃がしません。)

なのはが、雷の大剣を構える。

おいおい……女の子の武器じゃないぜ……。

(わ……私を殺すの?)

ドクターが言う。

……。

(プラズマザンバー！)

なのは色の雷の刃が振り下ろされる。

(私の真似……しないで下さい)

(私のマスターはそんな情けない声は上げません。)

心なしかレイジングハートの怒りが感じられた。

危ない……ギリギリで避けられた? いや……あいつはわざと……

……。

くそっ……。

私の計画……魔法使いとして絶対の能力を手に入れる計画
が……。

こんなガキに? ふざけるな……

断じて否……。

だが……。

いや……待て……

試験体ではあるが……あいつを使おう。

(貴様はツインユニゾンしているな?!)
?

突然の質問、時間稼ぎ……?

(してますよ。)

やっぱり……

私の論文どおりじゃないか……

しっかりと制御できる……

たった一度の暴走で、私は災厄の科学者……

そして、異世界追放……

だが、暴走はしていない……

ミットチルダの本局が、嘘をついたのだ……

ならば！3体でも出来るはず……

それが、同一体ならなおさら可能性は高い。

(何を……)

ドクターがイスに座る。

(ありがとう、高町なのは。)

え？

(君のおかげで私の研究成果が試せる。

君はツインユニゾンだ……しかし。

私はトリプルユニゾンが出来る。)

……?

一体何のこと？

(こいつらを私に取り込むのだ。素晴らしいだろう?)

ドクターが何らかのボタンを押すと、三つの機械が現れた。

中に……女性？

え……?違う……あれって。

(そう、知ってる通り、リインフォースの初代それをコピーした2つ。)

君らが、消滅させたとき、此処に来るように設定していたんだよ。え？

(闇の書の改変から・・・)

アルハザードを崩壊させる失敗もあつたが・・・

ついに君らでこのときを迎えられた。

そしてツインユニゾンに成功させた君。

そして私はトリプルを実現させる！)

闇の書の改変・・・？

まさか・・・。

(貴方の仕業だったの?! 夜天の書は・・・)

(そうだ。そして、こいつが死ななければならなかったのも・・・な。)

初代リインを指して言う。

(くっ・・・アクセラ————)

(トリプルユニゾン!)

なのはが仕掛ける前に、ユニゾンの光が輝き、

なのはがひるむ・・・。次の瞬間・・・

なのはの目の前に天井があり、衝突した。

『絶対禁忌秘術トルプルユニゾン』(後書き)

まず、ごめんなさい。

あとは特に……。

読んでくれて有難うございました。

感想等、お待ちしてます。

『レイジングハートアグレッシブモード』(前書き)

なのは「過去のなのは。ドクター」大人なのは
これでお送りいたします。

右の見た目が左の呼び方で登場です。

少々能力補正があります。

『レイジングハートアグレッシブモード』

(かはっ……。)

意味も解らず、天井に衝突し。

そのまま下に落ちていくのがわかる。

口の中は血の味がして、気持ち悪い……。

何が……？

(マスター！)

レイジングハートの呼び声で我に返る。

何とかして体勢を……。

(まだ……終わらないよ？)

真横からの声……。

不気味なほどに、冷機の帯びた声……。

(プロテクションパスワード)

レイジングハートがシールドを張る……が。

横に居たそれは、にやりと笑うと一撃。

シールドは薄いガラスのように砕け散り、

突き抜けた拳が、なのはの腹部を打ち抜いた。

普通のパンチで、なのはは隣の部屋まで壁を突き抜けて行った。

……。

(うっ……あぐう……)

息がしにくい……。

リンとアギトの声も聞こえない……。

ユニゾンが解け、二人が分離した……が。

(死んじやいない。気絶だろ)

ドクターが貫通した穴から進入する。

.....

どうしよう.....

(バリアジャケットも.....)

服も普通の私服に戻っていた.....

(あゝ。その程度か。)

ドクターは笑いながら、終わりの鐘を鳴らそうとなのはに近づく。

こんな.....

(まだです。終わってはいません)

壊れかけのレイジングハートが言う。

でも.....

(マスター。私はまだここに居ます。)

(でも.....)

(私達はまだ.....闘えます。)

レイジングハート.....

二つのレイジングハートが輝く。

だが、その光は小さく今にも消えそうな光.....

(闘える？壊れてるじゃねえか)

ドクターが苦笑する。

そう.....

無理に闘えば.....レイジングハートが.....
?!

なのはの体が持ち上げられる。

(終わりだよ。もう。楽には殺さないぜ？)

バリアジャケットが無いお前はただの少女。例えば.....)

急に後ろに引っ張られ、その後、前に投げ出され

壁にぶつかる。
バリアジャケットが無く、ダメージはそのまま直に来る。
今ので……。骨……。折れたかも……。
体を庇う為に壁の方に向いていた右腕……。
不思議と痛みは無いが、動かす事も出来ない。

（死ぬのが怖いか？）

ドクターは最初なのはが居たところに立ち、
なのはに聞く。

死ぬの……？

死ぬのは……。

（マスターは死にません）

え？

（何を？現に虫の息だろうが）

ドクターが笑う。

（何がおかしいのですか。マスターは死にません
死なせません。私はまだここに居るのです。

此処に私が存在する以上。死なせません。）

?!

レイジングハート……。

小さく光る赤い宝石を見つめる。

（マスター。私にマスターを守らせてください。

マスターの未来……。マスターの命を。）

レイジングハートはそこまで言うと、静かになる。

おかしい……。

レイジングハートに感情でもあるのか？！

私はそんな機能つけてなど居ない。

ありえない……。それに……。

いや…………。

（レイジングハート。どうやってまもるんだ？）
ドクターは意地悪そうに聞く。

確かに…………。リン達が居ないと、
レイジングハート以外は使えない…………。

まさか…………？！

（マスター私を信じてください。私たちを展開して下さい。）

（過去のマスター。大丈夫です。信じて下さい。

私のマスターは弱くありません。過去のマスター
と私達の全力全開で）

（解ったの。どうすればいい？）

初めて会った時を思い出すなあ…………。

（右手に過去を、左手に未来を…………）

レイジングハートに合わせてなのはも言う。

右手に私の左手には未来の私を…………。

（天地翔る覇者の魂。今解き放つ。）

二人が言い終えると、エメラルド色の輝きがなのはを包む。

折れたはずの右腕も動かせる…………。

二つのレイジングハートが一つになり、そして…………。

（レイジングハートリミットスフィア。セットアップ）

?!

なんだ…………。あれは…………。

私はレイジングハートにあんな機能など…………。

（レイジングハートアグレッシブモード）

装甲は

見た目はあまり変わらず、変わったといえば緑色になったくらいだ…………。

(見掛け倒しじゃないか。)

ドクターが笑う・・・その瞬間。

後ろから・・・声が飛ぶ。

(見掛け倒しかどうか、教えてあげます)

?!

見えなかった?!

(ラジフィスソード)

なのはもつ二つの杖が2本のレイピアに変わる

(切り裂け・・・旋風!一風尖華)

緑色の魔力の斬撃が、放たれる。

かろうじて・・・かわしたドクター・・・だが。

追撃がこない?

(レイジングハートを道具としか見てなかったから

貴方は見過ごした。)

声?目の前に・・・いない?!

まさか・・・。

(覚悟して下さい。私の大切な人達を傷つけた事。
後悔させます。)

先ほどまで目の前に居た少女は・・・後ろにいた。

『レイジングハートアグレッシブモード』(後書き)

もうすぐ、終わりです。

本来短編のつもりだった……。
読んでくれて有難うございました。

『青空の下で』（前書き）

なのは「過去のなのは。ドクター」大人なのは
これでお送りいたします。

右の見た目が左の呼び方で登場です。

なのはにチート補正がついています。

『青空の下で』

(レイジングハート、リベルランサーモード)
なのはが言っと、二つは一つになり、長槍になった。
。。。。。

あれの効果が解らない。。。対処を。。。
それに何故緑色なんだ?!
あいつは桃色のはず。。。。。

(よそ見してて良いの?)
なのはの槍が目前に迫っていた。

くっ。。。。。

(プロテクション)

なのはの技。。。。。
私の力を使う。。。。。
フェイトちゃんのも。。。。。

(でもね?)
なのはは何故か、悲しそうな顔をしていた。

(無駄なの。)

なのはの槍が触れた瞬間、魔力の結合が解かれ、
シールドが消える。
?!

(貴様。。。何を。。。)

(ドクターの研究。私は成功を願っていた。
しかし、貴方はいつしか、力を名誉を。。。。
それしか見えなくなりました。私はそんな貴方を止める為に
独自にプログラムを作り、今のための力とした。
過去の私を呼ぶために偽の救援要請を流した。

そして、予めプログラムした時空転移魔法でこの世界に過去のマスターをよんだ。

二つの私で構成される究極ユニゾン魔法ツインデバイス
攻撃的な魔法と速さそして貴方をそこから切り出すための魔力
グリーンスフィアマジック。

貴方の苦手な魔力です。

これを体内に打ち込めば貴方は消え去ります)

長いレイジングハートの心の言葉。

機械ではなく・・・供だったレイジングハート

その想いを告げた。

・・・。

レイジングハート・・・。

(マスター。)

レイジングハート。

(うん。レイジングハート。スフィアモード)

・・・。

これで終わらせる・・・。

(私の邪魔をするな！私は絶対的魔力を・・・)

(それは驕りです。ドクター)

リンフォース?!

初代リンフォースのバインドがドクターを締め上げる

(マスター・・・唱えてください。スターライトブレイカーを)

くっ・・・。

くそ・・・。

(私の夢を・・・終わらせてたまるかああああ)

(貴方の夢は人を傷つけすぎた！反省して下さい！)

(スターライトブレイカー)

巨大な緑色の魔力砲が放たれ、

ドクターの体を突き抜け、天井を吹き飛ばし、
その光は天に届く……。

光が消え、解放された大人のなのはが
リインフォースに抱かれ降りてきた。

……。

ずっと室内に居たからか、

吹き飛んだ天井から見える青空はより一層の明るさを見せていた。

『青空の下で』（後書き）

次で終わりです。

読んで頂いて感謝感激です。

『そして……』 (前書き)

特にありません。

これが最終話です。

殆ど会話で形成されています。

『そして……』

(ふふっ、久しいな。)

(リインフォースさん)

(そんな悲しそうな顔をするな。)

(有難うございました。)

(レイジングハート。貴女は良い主を持った。
あっ……)

リインフォースの体が光に包まれていく。

(これで本当のお別れですね。)
リインフォースが笑う。

(さようなら。リインフォースさん。)

(ああ。？をよろしく頼むと伝えてくれ。)

(確かに。伝えます。)

……

(行っちゃったね。)

……

(いいの？未来の私は？)

(気づいてた？)

(本当はリインフォースさんに抱かれて降りてきた時から
起きてたんだよね？)

大人なのが立ち上がる。

(ごめん。)

……

うっん……

(なんか、自分に謝られてもなあ。)

(あははっ。そうだね。)

(過去のマスター。)

(レイジングハート。)

子供なのはがレイジングハートを差し出す。

.....

(もう、落としちゃ駄目だよ。)

(解ってる。そっちこそ。大事にね?)

子供なのはは頷いた。

(時空転送、開始。)

(みんなによろしくね?)

子供が微笑む。

(うん。それじゃ。)

大人なのはは一礼して扉に向かう。

.....

(さようなら。過去の私。)

(またね? 未来の私。)

広間への扉を開けたとき、玉座の間に人はもう、居なかった。

(なのは?!)

(なのはちゃん。)

みんな.....

(みんなごめんね?)

なのはが謝る。

(謝んな。)

(ヴィータちゃん.....)

(お前は笑ってればいいんだよ)

ヴィータがなのはを軽く叩く。

.....

(なのはママ。かえでは?)

ヴィヴィオ?!

(ねえ・・・かえでは?)

(帰ったよ。居るべき場所に。)

(そっか・・・。良かった)

ヴィヴィオはそう言っただけ微笑んだ。

(ほな・・・帰ろうか? フェイトちゃんも腕折れてるんやろ?)

(うん。でも、大丈夫。)

(大丈夫じゃないよ! 急ごうよ!)

(帰ろうか。)

そして、みんなは本局へと帰っていった。

.....

(あ・・・。れ?)

(なのは!)

(なのはちゃん!)

なのはが目を覚ますと病室だった。

横には、嬉そくに喜びながら泣く、親友二人。

(無事なん?)

(うん。大丈夫。ちょっとした夢見てた。)

(夢って・・・でも、ビルの倒壊に巻き込まれたのに無傷だったし・
.....)

そっか・・・救助中に・・・。

(はやては変わらないね。)

大人のはやてと比べついクスッと笑う。

(なんなん?)

(ううん。なんでもない。)

.....

あの経験は夢だったのかもしれない。

そう思うと、悲しいな……。

（なのは？どうして泣いてるの？）

フェイトが心配そうに聞く。

あっ……。

（ううん。なんでもない。ただちょっとね。）

（マスター。夢ではありません。）

レイジンググハート……。

そうだね……。

（なんなんよ。二人して。）

（私とレイジンググハートの秘密。）

なのははそう言って微笑んだ。

病室から覗ける外は、綺麗な青空だった。

『そして……』 (後書き)

これで最終話なのですが、如何でしたでしょうか……。

楽しんで頂けたならそれで嬉しいです。

出来れば、感想等下さい。

今まで読んでくれて有難う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1680q/>

リリカルなのは？～過去と未来の邂逅～

2011年1月19日04時48分発行